公開講座「Web ページ・レイアウト講座」の設計と受講生の意識と評価

山島 一浩 Kazuhiro YAMASHIMA
森 優子Yuko Mori

概要: 大学における公開講座の在り方について、演習を含んだ講座の一つを検証しながら、考察を試みる。対象とした公開講座「Webページ・レイアウト講座」の概要を紹介し、参加した社会人の意識について、受講前と受講後のアンケート調査により、考察を試みた。その結果、受講生は、インターネットについてよく利用しており、オーサリングソフトを利用してホームページ制作を試み、また仕事で必要性を感じている方もいた。仕事では、オーサリングソフトを利用しているが、作業中にレイアウトがずれるなどの悩みを抱えていた。受講生は熱心に取り組み、HTMLやCSSの概念を含んだ内容について学びたいという学習欲求が感じられた。講座は、無事終了し、受講後のアンケートでは、理解が深まったなどの他、直面していた課題の糸口をみつけれられたなど、おおむね講評であった。その一方で、不満として挙げられていた内容からは、より長期的に学びたいなどの要望が上げられ、技術指導を含んだ講座では、短期的な講座形式ではなく、長期的に学べるようなスタイルの必要もあると考えられる。さらに、それに付随した素材作成のための講座等についても関心を示し、単独の講座だけではなく、関連する講座間との連携を踏まえた、総合的なカリキュラムを念頭においた設計も、社会人のニーズとしてうかがえることがわかった。

キーワード: 教育評価／公開講座／Webページ編集

1. はじめに

昨今、大学が開催する公開講座には、多くの社会人が参加をしている。公開講座は、大学が持つ専門的教育研究について広く社会に還元する目的や、生涯教育とも連動した意図を持って開講されているが、その一方で、如何に自校の特長を活かしながら受講者を集められる講座をどのような視点で企画立案していけばよいかな等の議論は、毎回定員を超える社会人が受講を希望してくることにかまけて、講座を担当する者の一人として、あまり議論を持ってきたとは言い難い。そこで、あらためて実施予定の公開講座について、受講生の意識と受講後のアンケート調査を通じて、社会人が何を求めて受講してきたのかを知り、講座内容について検証を試みようとするものである。本稿は、設計した公開講座「Webページ・レイアウト講座」の内容について述べ、参加した受講生の意識について調査し、受講後のアンケート調査から、講座内容について検討を行うものである。

2. 講座の概要

講座内容の設計では、大学2年次科目の内容を社会人向けに集約し、講座時間を、1回を2時間として、3回で計画した。開始時間は、仕事帰りを想定して、6時からの開講とした。

講座では、ソフトウェアの使用方法などを含んだ演習には終始せず、HTML^[1]やCSS (Cascading Style Sheets)^[2]の歴史的な書式形成過程や、ブラウザの対応状況に言及しながら、標準化に則った記述方法について論じ、それを踏まえた上で、演習課題を提示した。この課題は、学生にも提示している内容であり、演習予定時間との調整は、あらかじめ予測できている。

1回目は、HTMLについて、歴史的な背景と、HTMLの設計図ともいえるDTD (Document Type Definition) に沿った文書構造の説明と、HTML タグを用いた記述の仕方について、演習を行う。

2回目は、CSSの考え方について、HTMLとの関連性を踏まえた解説と、記述の仕方について説明し、HTML に対するCSSの適用を課題とした演習を行う。

3回目は、事前にラフスケッチを書いてきてもらい、その上で、これまでのHTML とCSSについてまとめを行う。最後の回では、トップページのメニュー画面の作成について、レイアウトを考慮した練習課題を提示し、それらをその後で、各自のラフスケッチをHTMLとCSSを利用してどのように適用させていくのかという考え方を検討しながら、終了する。

操作PCは、Mac^[3]とした。演習で利用したソフトは、Adobe Dreamweaver^[4]である。定員は、20名とした。

3. 受講生の意識と講座の状況

受講生は、定員を超えた応募があり、予定人数を10名超えて、30名の受講生を抽選で受け入れることにした。

3.1. 参加者の概要

まず、第一回目の講座の冒頭で、簡単なアンケート調査を実施した。表1がその結果である。

表 1 講座前の事前調査

	Yes	No	他
インターネットはよく利用している	100%	0%	0%
Mac は、使ったことがある.	39%	57%	4%
HTML タグは、よく知っている.	17%	61%	22%
CSS についてよく知っている.	9%	83%	9%
Photoshop は、よく使っている.	13%	83%	4%

受講者は、日頃インターネットについてよく利用しており、HTML、CSS共に知っていると言った受講生は、小数であった。Photoshop を利用している人も少なかったもので、簡単なメニュー作成用素材の編集については、省略し、素材は、こちらから提供することにした。

3.2. 参加者の受講目的

表 1 より、演習における、Macの操作について懸念されたが、実際に講座の中では、受講生全員が、スムーズに操作を行っており、操作による時間のロスは、ほぼなかった。このことから、日頃コンピュータ操作を行っている方々であることがみてとれた。

受講の動機について回答してくれた方によると、表2のような回答が得られた。

表2 参加の動機について

この講座に参加された動機は何ですか。

- Web レイアウトに興味があった。
- HP をつくってみたかった。
- 内容に興味があった。
- CSS の適用方法がよくわからなかったの
- CSS について勉強したかった
- HTML, CSS について勉強したかった。
- 実務で困難を感じていたため。
- Web レイアウトの方法を学びたかったから。
- HP 作成のため
- Web 関係のスキルを身につけたいため
- 会社の HP 更新のため
- 仕事でホームページを作るため

仕事で必要性があることや、レイアウトや具体的な表現の記述書式である HTML やCSSについて勉強したいという目的がうかがえる。また、演習時の中での質問で、日頃、別の編集ソフトを利用しているが、ワープロ感覚で操作していくと、途中でレイアウトが崩れるなどのトラブルが発生し、困ってしまったということを述べられた方がいた。

1 回目の HTML については、「DTD とは何か」、「HTML の形成」から、「ブラウザ戦争(シェア争い)の結果生まれた属性」、「標準化の動向」について、終了時のコメントを書いてもらった。それによると、「教養として興味深かった」等の意見をもらえた。その一方で、演習時間が制約され、「あっという間の時間だった」という感想とともに、「少しかけ足だった」との意見もあった。

そこで、2 回目の CSS については、受講生に予備知識がないことが表 1 の結果より把握していたため、体験させることを重視し、HTML の復習を兼ねたリストの作成を行い、生成されたタグを見ながら、階層構造における CSS の適用範囲を確認させ、適宜タグに対して CSS を適用していく実習を行った。

すると、今度は、タグ 1 つ 1 つに対して、スタイルが決められることに気づいてもらえ、CSS とは、「どのようなものなのか」、「どのように使えばよいのか」についてわかったとの意見をもらえた。

3 回目は、これまでの「HTML の基本について」、「CSS の基本について」を踏まえて、課題としてメニューを作成する課題を行った。後半では、受講生に持ってきていただいたラフスケッチに対して、HTML のタグをはめ込み、レイアウトを設計する作業を机上で行い、終了した。

講座は、受講生の熱心な質問もありながら、無事終了した。また、中には、日頃抱えている問題点について講座終了後に質問をしに来る受講生もいた。質問は、やはり編集ソフトの操作は覚えても、いざレイアウトが崩れだすとうとうしようもなくなる。または、作業依頼者自身がよく理解しておらず指示を出してくるために、どの箇所をどうすればよいのかわからない。という、極めて問題の箇所が、HTML や CSS の記述に関わる箇所であり、受講生側でそれを意識できておらず、指示のあいまいさも含んで、レイアウトに関わっている点が特徴的であった。

4. 講座内容の検証と考察

講座終了時に、アンケート調査を行い、講座について検証を試みた。有効回答数は、24件であった。

4.1. 講座アンケート

講座についての終了時の質問は、表3に示す内容である。

表3 アンケート項目

質問内容	
1)	講座の内容は理解できましたか。
2)	Web レイアウトの基礎的な考え方は理解できましたか
3)	HTML は難しいとおもいますか
4)	HTML のタグを知ることは重要だとお考えですか
5)	CSS は難しいと思いますか。
6)	CSS を積極的に利用したいと思いますか。
7)	Web レイアウトについて普段思い通りにいかず困ったことはありますか。
8)	今回の講座の満足度
9)	講座の時間は十分でしたか
10)	学んだ内容について
11)	進め方について

4.2. 講座の意図と受講生の意識

まず、「講座の内容は、理解できたか」という質問に対して、回答者全員が「はい」と答えている。次に、「Web レイアウトの基本的な考え方は理解できたか」という質問にも、回答者全員が「はい」と答えている。従って、講座の目的や、伝えたい内容については、おおむね理解を

しめしていただけたと考えている。
次に質問項目3)の結果を図1、質問項目4)の結果を図2で示す。

図1 質問3)の回答

図2 質問4)の回答

これによると、HTML については、7割近い方が難しいとは思わず、9割以上の方がタグについて知っておくことは重要だと考えている。
質問項目5)では、図3のような結果となった。これによるとHTML3割に対して、7割の方がCSSは難しいと考えている。

図3 質問5)の回答

その反面、質問項目6では、9割以上の方が CSS を積極的に使いたいという意欲を示している。

図4 質問6)の回答

また、積極的に利用したくないと答えた方の理由は、「作成者でないと内容がわからない面がある」との答えであった。次にレイアウトに関する質問であるが、図5のように、8割以上の方が、レイアウトについての悩みを抱えていることが浮かび上がってきた。

図5 質問7)の回答

その例として「プルダウンメニューの表示」、「作成中急にレイアウトがくずれる」、「テーブルの操作」などでのことであるとの回答も得られた。

4.3. 講座についての受講生の意識

今回の講座の満足度について、図6の結果となった。

図6 質問8)の回答

「かなり不満」という感想を持たれた方の主たる理由は、「時間が短すぎる」というものであった。「やや不満」

という方の理由も、「内容にボリュームがあったので、もう少し時間が欲しかったです。習得するには厳しかったかもしれないです。」や「レイアウトの部分をもっとやってほしかった。」というものであった。

次に質問10の学んだ内容については、6割が「ちょうどよかった」と答えており、ほぼ内容の設計は、受講者の層にあっていただと考えられるが、2割程度が「簡単だった」と「難しい」という層にわかれている。

図7 質問9)の回答

次に質問10の学んだ内容については、6割が「ちょうどよかった」と答えている。

図7 質問10)の回答

最後に、講座の時間は、十分であったかという質問に対して、42%の方が「いいえ」と答えている。

図8 質問11)の回答

さらに「いいえ」と答えた人にどれくらいの時間が必要と質問したところ、次のような答えが回答されてきた。

表4 どれくらいの時間が必要か

どれくらいの時間がよいか？(いいえの方のみ)

- ・10～15時間
- ・2時間の講座を5回連続で受けたかったです。
- ・3時間ずつ全10回程度
- ・6コマ12時間くらい
- ・6時間
- ・あと2時間
- ・休憩込3時間だとありがたいです
- ・全3回だとつらい、回数をふやしてほしい
- ・倍くらい時間がほしい
- ・もう少し長いほうが良い
- ・よく覚えられるまで

講座の時間数については、実習を含ませて倍以上の時間を設計し、その場で課題解決が確認できるまで実施することで、受講生の目的を満足させることが考えられる。

これまでの学生の授業科目では、作業中に障壁となりうる課題に気付かせようとする意図が、授業目的としてあらかじめ含まれていた^[5]。しかし、社会人受講生は、あらかじめ課題にぶつかり、それを解決するために、公開講座に参加してきていることがわかる。その分を見越して時間数を短くしていたが、満足度としては、不十分として受け止められたようである。

4. まとめ

調査結果より、社会人の学習意欲は総じて高く、現実的な課題に直面して、それを解決しようとして参加している。Web ページの編集ソフトは、手軽さを提供している反面、裏側に問題を抱えているともいえ、それが利用者の壁になっている。演習を含んだ公開講座は、このような社会的な要求にも応えていくことも重要である。

参考文献

- [1] HTML: <http://www.w3.org/html/>, 2008.3 現在
- [2] CSS: <http://www.w3.org/Style/CSS/>, 2008.3 現在
- [3] Mac: <http://www.apple.com/jp/>, 2008.3 現在
- [4] Adobe Dreamweaver: <http://www.adobe.com/jp/products/dreamweaver/?promoid=BPBRI>, 2008.3 現在
- [5] 山島一浩, 堀越眞理子, "Web デザイン科目における学生の協働の学びの構造とその課題", 日本図学会2007年度大会(東京)学術講演論文集(2007), pp. 257-260.

著者紹介

やまし かずひろ : 筑波学院大学情報コミュニケーション学部情報メディア学科, 305-0031, 茨城県つくば市吾妻 3-1

もり ゆうこ : 筑波学院大学情報コミュニケーション学部情報メディア学科, 305-0031, 茨城県つくば市吾妻 3-1